

「職員、入居者双方にとっての安心・安全な介護を」

グループホーム やわらぎ
ユニットリーダー 谷口 まゆみ

施設の概要

松山市枝松交差点近くの住宅街の中に2003年3月に開設。木造2階建て、2ユニットで定員18名、職員は派遣社員も含め、20名（うち夜勤専従 4名）。

エレベーターはなく上下階の移動は外階段とそれにつけられた昇降機のみ。

昨年度、愛媛県ノーリフティングケア普及啓発モデル事業の指定を受けて取り組んだ。

職員の介護負担（導入前アンケートでは）

50歳以上の職員が占める割合は50%の9名。現職に就いてから腰痛が発生した職員は「時々」「たびたび」合わせて69%、負担の多い介護場面では移乗38%、入浴24%となっている。

課題

抱え上げる介助場面が多い

- ・入浴・移乗・ベッド上・車椅子での座り直し

福祉用具の活用

安楽な姿勢を知る

具体的な取り組み

①ノーリフティングケア推進委員会の立ち上げ

②介護現場のアセスメント

- ・対象者の選定（対象者4名）

A氏・81歳、男性、日常生活自立度 IV、片麻痺、筋緊張が強い

B氏・86歳、男性、日常生活自立度 IIIa、全介助、立位は取れない

Cさん・92歳、女性、日常生活自立度 IV、右麻痺、円背、骨折リスクが高い

Dさん・102歳、女性、日常生活自立度 IV、活動期と睡眠期のサイクルがあり睡眠期は2~3日続く

- ・福祉用具の導入で介助負担を減らす（入浴、移乗の見直し、ベッド上での移動、車椅子での座り直し）

- ・福祉用具の使用方法の確認

③ポジショニング研修（姿勢の見方、整え方、座位姿勢）

④えひめ福祉用具フェアへの参加

⑤リフト体験会の実施

活動の成果と評価

①入浴介助に関してはシャワーキャリー、バスボードの導入をしたが、下記の理由で中止する

- ・シャワーキャリーのフットサポートが小さく足が乗らないので危険
- ・バスボードから手すりが持てないため危険
- ・バスボードから湯船につかる際に背中がボードの縁にこすれる危険性がある

②フレックスボードの使用で職員の介助負担が減り、入居者は恐怖感が薄れたせいか声が出なくなった。

③ポジショニング研修を受けたことで安楽な姿勢を知ることができた。

・就寝姿勢を整えたことで翌日から変化がみられた。

座位姿勢⇒しっかりと顔が上がった。座っている様子からはしんどそうな感じをうけない。

食事量に変化がみられた

今後の課題

- ①入浴時の介護負担軽減のため、リフト導入に向けた働きかけをする
- ②ノーリフティングケアの目的や正しい介護技術、福祉用具の使い方の研修をする
- ③職員、入居者双方に安心・安全な介護実践していく